

# 特別展示 平 清盛 — 院政と京の変革 —

<http://www.kyoto-arc.or.jp>  
(財) 京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

京都市考古資料館では、平成23年度の後期特別展示として、「平清盛—院政と京の変革—」を開催します。

平安時代後期は、日本の歴史における古代から中世への変換期にあたります。政権の所在地であった京都では、院政を行なった4人の上皇（白河・鳥羽・後白河・後鳥羽）に権力が集中し、大規模な寺院や殿舎が造営されるとともに経済・流通にも大きな発展が見られました。平清盛は、保元の乱・平治の乱を通じて頭角をあらわし、やがて後白河上皇と対抗するまでの政治力を握るとともに、日宋貿易を推進します。

『平家物語』をはじめとする文学作品には、この頃の平安京の情景や人々の姿が活写されていますが、遺跡の調査成果からも大きな時代の画期であったことが明らかになってきています。

今回の展示では、京都における平清盛や平氏一門に関わる遺跡・遺物を紹介するとともに、白河から後鳥羽院政期（11世紀後半～13世紀前半）の平安京・京都に起こった変革を、「平清盛と平氏の足跡」、「流通の発達」、「大規模な寺院・殿舎の造営」、「院政期の生活と祈り」の4つのコーナーに分けて、考古資料をもとに解説します。

(山本雅和)



西八条第跡 土器出土状況

西八条第は六波羅と並ぶ平氏の拠点でした。梅小路公園整備に先立つ試掘調査で、火災の焼土・炭片とともに土器や瓦が出土しました。



法勝寺八角九重塔復元CG

法勝寺は院政期を代表する巨大寺院です。高さ81mに復元される八角九重塔は、白河上皇の権力を象徴するモニュメントでした。

富島義幸：復元考証・設計方針検討  
竹川浩平：設計図面・CG作成



平頼盛邸跡

京都駅構内の調査で頼盛邸の泉跡や建物の雨落溝が見つかりました。泉の湧口には陶器の大甕が据えてありました。また、日宋貿易によりもたらされた中国製陶磁器も多数出土しています。



法勝寺八角九重塔地業

八角九重塔を支えるため、基壇外側の広い範囲にまで地業（基礎工事）が行なわれました。人の頭ほどの大きさの石を含む粘土層を積み上げています。



法住寺殿蓮華王院

蓮華王院は平清盛が後白河上皇のために建立しました。三十三間堂の西側では3棟の建物跡が見つかりました。瓦がほとんど出土せず、檜皮葺きの寝殿と推定しています。



鳥羽離宮東殿の苑池

東殿には広大な苑池が広がっていました。池の汀は緩やかで、洲浜には玉石が敷かれていました。後方に見える多宝塔は、近衛天皇陵です。



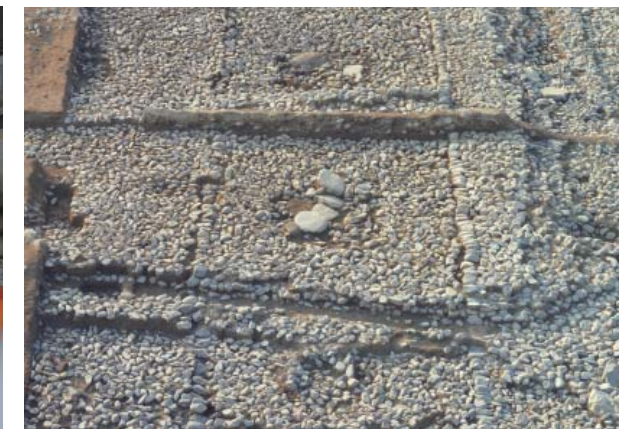
白河天皇陵

鳥羽殿の一角に営まれた白河天皇陵は、現在よりも規模が大きく、一辺66m・幅6mの堀に囲まれていたことが発掘調査によってわかりました。



鳥羽離宮金剛心院出土瓦による屋根葺上げ復元

上皇や皇族が建立した大規模な寺院の屋根には、各地で生産された瓦が葺かれていました。写真の軒瓦は播磨国（現在の兵庫県）のものでした。



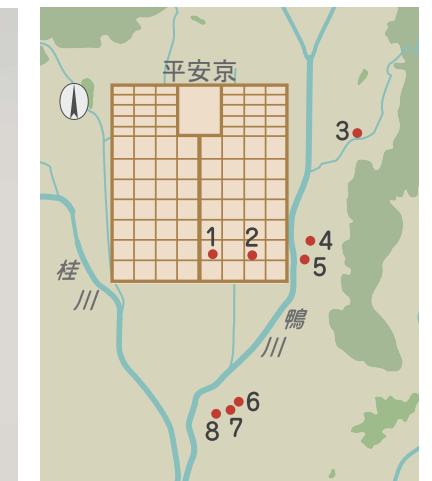
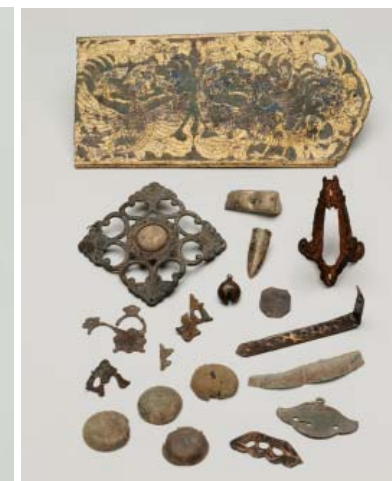
鳥羽離宮金剛心院釈迦堂地業

大規模な寺院や殿舎の造営にあたっては、軟弱な地盤を改良するための入念な基礎工事が行なわれました。石や粘土を敷き詰め、突き固めています。



さまざまな荘殿金具 法住寺殿最勝光院出土（左）・鳥羽離宮金剛心院出土（右）

最勝光院は後白河上皇の寵姫・平滋子（建春門院）が発願して建立された寺院です。また、金剛心院は鳥羽殿の中でも最も発掘調査が進んでいる寺院です。仏堂を飾った金銅製の飾金具をはじめとして、さまざまな遺物が出土しました。青色に輝くのはガラス玉。



調査位置図

1 西八条第 2 平頼盛邸 3 法勝寺八角九重塔 4 蓮華王院 5 最勝光院 6 鳥羽離宮東殿 7 白河天皇陵 8 金剛心院